

海王丸タイムズ (仮称)



ボランティヤ 作製のセイル完成す

昨年より、展帆ボランティヤの方々に協力していただいて作製してきたセイル等(メインロイヤル、ミズントップマストステイスル、フールドカバー)が完成し、2月28日(日)帆を縫ったボランティヤが完成式を行いました。このセイルは昨年より毎週土日曜日に展帆ボランティヤの方々に縫っていただいていたもので、予定より約2週間早く完成し、今回の完成式にいたったものです。セイル作製はすべて手作業で行われ、多くの展帆ボランティヤの方が帆船時代と変わらぬセイルの縫い方に接しました。そして針を入れた方全員の名前が記念としてセイルに書き込まれました。



「お今セイルとついで!!」

1. バンティヤの協力の帆の取り付け)の協力のお願い
 ①日時 平成5年3月20日(土)、21日(日) 0900~1600
 (雨天、強風時は平日に延期。延期の決定は当日0800に行います。)

②作業内容 セイルの搬出、点検及びロープの張り合わせ等

参加希望の方は3月18日(木)までに同封の葉書で「連絡下さい」。

屋食を用意いたします。

連絡先 (財) 帆船海王丸記念財団
 業務課 Tel 0766-82-5181
 0766-82-7084

2. ボランティヤ 練習日について

平成5年度の総帆展帆を前に約5カ月ぶりにマストにのぼり高さへの感覚を思いだしていただきます。(昨年1回も総帆展帆に参加されなかった方もぜひ参加ください。)

①日時 4月 3日(土)、4日(日)
 午後1時集合
 4月17日(土)、18日(日)
 午後1時集合
 別紙のとおり

②訓練内容

3. 展帆口等

①日時 4月29日(木) 総帆展帆①
 5月 5日(水) 総帆展帆②
 6月 6日(日) 総帆展帆③
 7月 4日(日) 総帆展帆④
 7月20日(火) 万船飾 海の記念日
 7月24日(土)
 8月 1日(日) 総帆展帆⑤
 8月21日(土)
 8月29日(日) 総帆展帆⑥
 9月23日(木) 総帆展帆⑦
 10月11日(月) 総帆展帆⑧
 11月 3日(水) 総帆展帆⑨

イルミネーション②
 イルミネーション①



4. 「ボランティヤの」について

①日時 平成5年4月24日(土) 1830~

②場所 高岡商工会議所10F 商工レストラン (予定)

詳細は後日連絡いたします。

シリーズ 「海王丸の」

第2回目はビスケット (Biscuit) を取り上げます。もちろんこれは幼少の頃よりおなじみの美味しい食べ物ですね。この語源については、昔ある大手食品メーカーの方が朝日新聞に掲載しています。

「約150年前、ある英国船が3昼夜も続く大時化に会い、あやうく難を逃れたものの船内にはわずかな食料、すなわち半袋の小麦粉、少量のバター、砂糖、卵しか残っていませんでした。そこで炊事係はこれらをこねあわせ、鉄板にのせて焼いたところ素晴らしく美味しく帰国後もこの味が忘れられずいるる製法を研究した結果、今日のような食物となった。そして、これを時化に会ったビスケイ湾 (St. Biscay) にちなみ、ビスケットと呼ぶようになった。」

ところがこの話には少々無理があるようです。すなわち年代的にビスケットについてはすでにシェイクスピアによる記述がなされており、このことから少なくとも350年以上の歴史を有していること。また語源的には、ラテン語の



his coculus (twice cooked: 2回焼く) からきており、長途の航海用に保存がきくように2回焼きをして、海上の食物として一般化したことが広く知られていることからです。

もともと本来のビスケットは、現代人のイメージとはかけ離れたものだったようです。それは、ビスケットは海軍用語で hard tack、つまり堅い食物と呼ばれ、さらに船員の間では tremped palette (リパールの敷き瓦)とも呼ばれるほど堅かったとのこと。それでも帆船時代の長い航海ではコクゾウ虫がわいたようで、当時を舞台にした小説では、必ずと言っていいほど船員達が不平を言いながらコクゾウ虫をたたき出す様子を描く記述が見られます。余談ですが、当時の船員さん達は、同じく保存食であった塩漬の豚肉をゆでた後に残るドロドロの油を珍重して、それをビスケットに塗り柔らかくしてから食したと聞きますが、脂身嫌いの私にはこのセイスは理解できません。

いずれにしても、ビスケットの語源は比較的はつきりとしているようですが、個人的にははじめに書きましたお菓子屋さんの話の方が、なんとなく夢があつてよいと思ふのですが...

私 待つてますー

海王丸が現役を去って3年が経過、ひっそりとした船内で期たるべき活躍の日に備えて、今はその羽を休ませている者がいます。

その者とは、現役時代は実習生や士官に一生懸命かわいがられていた航海計器や気象測器の仲間達です。彼らは、この海王丸の安全な航海には、無くてはならない者ばかりでした。今では長年の疲れを癒し、期たるべき大阪への回航時の活躍を心待ちにしています。

そこで今回は、そんな彼らの日頃の仕事ぶりを皆さんに伝えようと思います。

さて、初回である今回は、

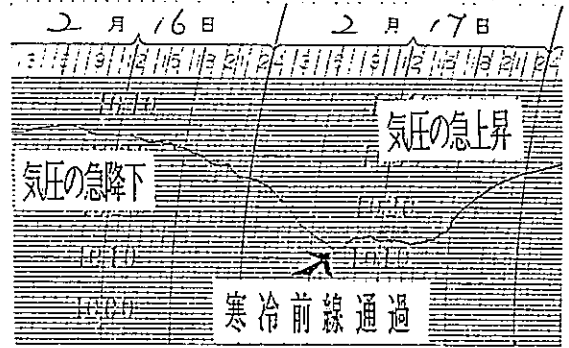
自記気圧計

取り上げてみました。

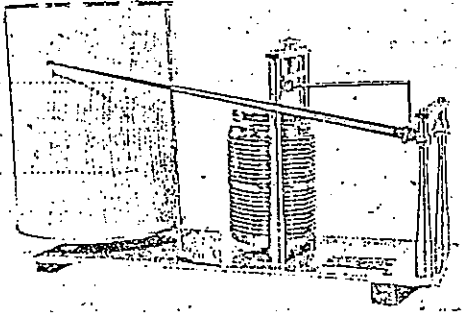
これは気象測器の一つで、本船には3台あり、うち2台はいまでも活躍しております。まさに読んて字のごとく自分で気圧を記録していく器械です。

しかし、放っておく訳にはいかず、必ず担当の航海士が一週間に一度、用紙の交換とゼンマイのネジ巻の面倒をみなければなりません。船にはこの他に毎時の正確な気圧を測るアネロイド式気圧計という器械もあります。

「自記気圧計」の良い所は、気圧の変化をグラフにより簡単に知ることができ、天気図と見比べることで、これからの天気をある程度予想することが出来ます。例えば、別図に示される様な気圧の急下降により寒冷前線の通過も容易に知ることが出来ます。見た目



は、大変地味ですが、とても重要な存在です。なにしろ船長の部屋にも1台あるのですから。海王丸には、まだ皆さんの知らない設備(中には我々でもその扱いを知らない物)があるかも知れません。不思議に思われる箇所がありましたら我々にお聞き下さい。新たな発見があり、そこから何か学べるかも知れません。



アネロイド自記気圧計

「海王丸タイムズ」の名前について
海王丸タイムズ(仮名)の名前を募集したところ、次の3つの名前が応募としてありました。

- ①「曇気楼」
- ②「舵輪」
- ③「SKIP」

S: SAILING SHIP
K: KATHO HARU
I: INFORMATION
P: PAPER

どの名前が良いか同封の葉書に〇をつけてください。
ボランティアの賛成の多い名前を採用いたします。

「帆船船団練習典」

はいりませんか?

この古めかしいネーミングの本は、航海訓練所が実習生向けに作製した帆船の教科書です。この度新造船の就航で不要となった帆船操典70冊が航海訓練所から寄贈されました。内容は若干専門的かも知れませんが、希望者にお分けすることとします。(もちろん無料です。)

希望される方は、返信用葉書の該当欄にご記入下さい。もしも希望者が70名を超える場合は、業務課で抽選とさせていただきます。この本で、より一層海王丸に関する知識を深めて下さい。



「ボランティア」

生口知板

募集します。

この「海王丸タイムズ(仮称)」にのせる記事、ボランティア間の連絡等ありましたらご連絡下さい。

あとがき

近年希にみる暖冬のおかげかどうかわかりませんが、初めての試みとして行ったボランティアによるセイル作製も当初予定していたよりも2週間ほど早く完成し、多くのボランティアの方に冬場の海王丸を楽しんでいただくことができました。

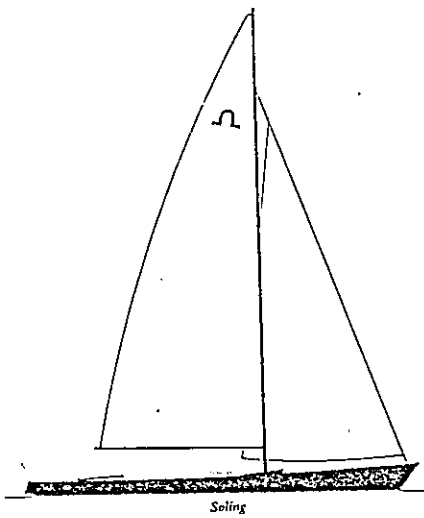
海王丸は3月24日まで、平成5年度の総帆展帆に備えてロープ類やセイルの取り付け等の整備作業を行っております。

セイルの取り付けの際にはボランティアの方々のご協力を仰ぎ、4月からの総帆展帆をボランティアの皆様と一緒に行って行きたいと考えております。

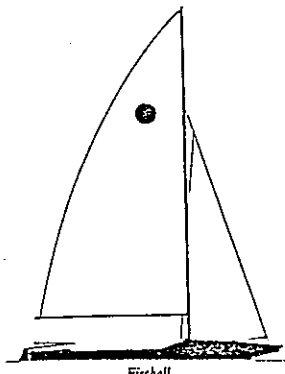
また、昨年度一度も総帆展帆に参加できなかった方も今年はずぜひ参加して下さるようお願いいたします。

最後にボランティアの皆様も、春うららの中で仕事にレジャーに頑張っていただければ、と思いません。

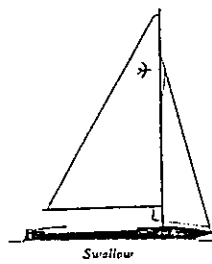
Yachts



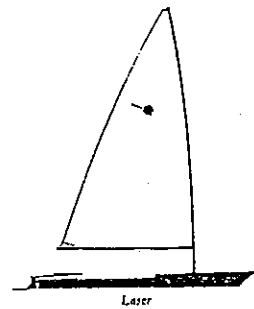
Soling



Fireball



Swallow



Laser